



伏拝近くの熊野古道に、みのを着た地蔵があります。道休禪門といふ、行き倒れた旅人を供養したものです。12年前、近くに住んでいた檀本育弘さんが妻の万代さんと散歩中に雪の中に立ち地蔵を見て、着せ始めたものです。去年10月に育弘さんが亡くなってからは、万代さんがその遺志を継いでいます。万代さんは、夫との思い出の風景を守り続けます。

### 道休禪門

旅の見どころ 3



美しい茶畑が広がる伏拝(ふしおがみ)地区。熊野古道沿いでお茶を栽培しながら暮らしている松本俊二さん(64歳)は、道を歩く人に、古道の歴史の説明や、景観の良いところの案内をすることが日課です。熊野川や、果無山脈の山並みが一望できる、高台から絶景で旅人を癒やします。松本さんの宝物は、案内した旅人から送られてくるお礼の手紙や写真の束。きれいにアルバムにまとめて保管しています。一期一会の出会いが何よりの楽しみです。

### 一期一会の出会い

旅の見どころ 2

### memo

アクセス方法  
 <飛行機> 南紀白浜空港から 明光バス(40分) → 「滝尻」下車  
 <電車> JR紀勢本線「紀伊田辺駅」から 龍神バス、明光バス(40分) → 「滝尻」下車  
 <車> 阪和自動車道田辺IC → 国道42号線(15分) → 国道317号線(25分)



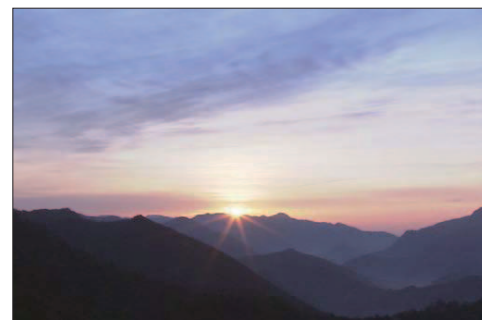
# 小さな旅

～30年 こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 49

春めぐる道  
 ～和歌山県 熊野古道～

2012年4月29日(日)放送



旅の見どころ 1

### 桜と生きる

熊野古道沿いには、数多くの桜の名所があります。近露(ちかつゆ)に住む野長瀬智子さん(88歳)の自宅の庭に咲く、しだれ桜もその一つです。樹齢280年、江戸時代に植えられた桜を、先祖代々守り続けてきました。古道に行く人々もその美しさに思わず足を止める人気の場所です。桜が開花すると、一人暮らしの野長瀬さんは、古道に行く旅人を迎える準備をします。庭は出入り自由になっていて、旅人だけでなく地元の人たちも桜を見に訪れています。

